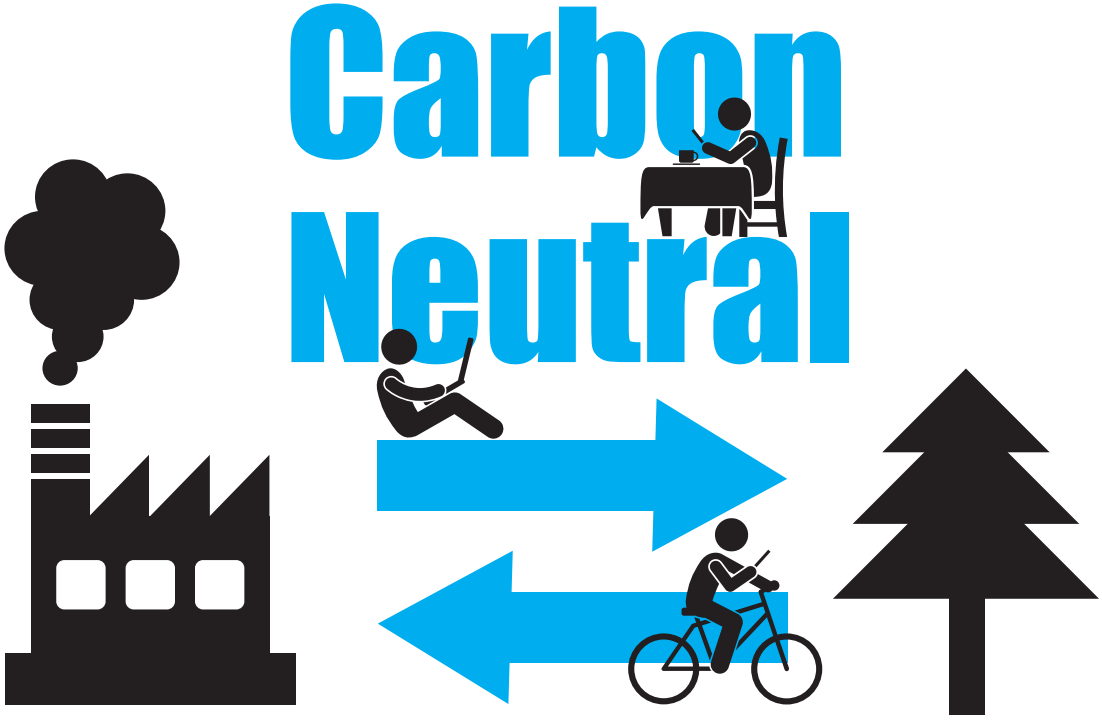
TOREX IR REPORT VOL.16

第27期 報告書 2021.4.1 > 2022.3.31



特集 省エネルギー製品の開発で脱炭素社会の実現に貢献

CONTENTS

P1 トップメッセージ
P6 連結財務ハイライト
P7 特集 省エネルギー製品の開発で脱炭素社会の実現に貢献
P9 会社情報・株式情報・株主メモ
裏表紙 新任役員からごあいさつ・当社ホームページのご案内

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

5ヵ年の中期経営計画を始動した第27期（2022年3月期）の市場環境は、自動車関連や産業機器、デジタル機器などを中心に、多くの分野で半導体・電子部品の需要が急速に拡大し、深刻な供給不足を招くほどの状況となりました。

そうした中で当社グループの営業状況も好調に推移し、連結業績は、売上高308億64百万円（前期比30.2％増）、営業利益38億97百万円（同222.3％増）、経常利益41億24百万円（同241.9％増）、親会社株主に帰属する当期純利益31億57百万円（同238.2％増）と、期初の予想を上回る大幅な増収・増益を果たしました。

当社グループは、引き続き中期経営計画にもとづく成長戦略を着実に遂行し、企業価値をさらに高めながら、CMOS電源ICとパワーデバイスを中心とする製品づくりを通じて、脱炭素社会の実現を支え、広く社会に貢献してまいります。

代表取締役 社長執行役員

芝宮 孝司

あらゆる電子機器の省電力化を促進し、脱炭素社会の実現に貢献します。

Q 第27期を振り返り、営業状況を総括願います。

A **売上高300億円を突破。前期実績の3倍を超える大幅増益となりました。**

この1年間は、半導体の需要が急拡大し、あらゆる分野で供給が不足する状況となりました。当社グループにおいても、アナログ電源ICの開発・販売を行う旧トレックスグループ(以下、トレックス)、ディスクリート半導体の受託製造を行うフェニテックセミコンダクター(以下、フェニテック)ともに受注が大幅に増加し、年間を通して生産拠点がフル稼働となり、納期対応に追われました。

トレックスの営業状況を振り返ると、重点分野のうち車載機器向けは、インフォテイメント系からボディ系へ販売を拡げ、産業機器向けは、FA関連の好調に加えて社会インフラ関連も伸長し、いずれも4割前後の増収となりました。医療機器向けも、コロナ対応関連の需要が継続し、前期並みの売上を確保しています。地域別の状況も、日本・アジア・欧州・北米の全エリアで好調に推移し、トレックス全体の売上高は前期比約1.5倍の141億円、営業利益は同3.5倍の17億円に達しました。特に北米は他のエリアより5ポイント以上高く伸びております。その主な要因は、評価用・小口用サンプルを取扱う商社向けの出荷が増えたもので、今後のビジネス拡大につながることが大きく期待できます。

フェニテックの営業状況は、車載機器向け及びその他機器を中心に売上高を伸ばし、地域別では日本国内の大幅な伸長に加え、アジアも前期に引き続き好調を維持しました。その結果、フェニテック全体の売上高は前期比約1.2倍の167億円、営業利益は同3倍の21億円となりました。本社工場の統合を中断して生産を継続し、第一工場と鹿児島工場の生産増強を行うことで、受注の増加に対応する一方、ウエハや補助材料などの資材不足に対しては、調達ルートの拡大や先行手配を図り、生産の維持に努めました。

以上により第27期の連結業績は、売上高が前期比3割増の308億円を確保し、各利益段階とも前期実績の3倍を超える大幅増益を果たしました。これに伴い、営業利益率は前期の5.1%から12.6%に、ROEは4.9%から14.9%に上昇しています。

Q 新技術・新製品開発の進展についてお聞かせください。

A **化合物半導体の開発が着実に進展。協業先への追加投資も実行しました。**

パワーデバイスの開発強化を目指す当社グループは、フェニテック鹿児島工場においてSiC(炭化

為替レートの推移

	第26期 2021年3月期	**第27期** **2022年3月期**
平均為替レート (1米ドル)	106.2円	**112.9円**

ケイ素）を使ったSBD（ショットキーバリアダイオード）やMOSFET（金属酸化膜半導体電界効果トランジスタ）、IGBT（絶縁ゲート型バイポーラトランジスタ）の開発・量産化に取り組んでいます。

SiCを使ったSBDは、第2世代をリリースして今年5月にサンプル出荷し、新たに開発したシリコン製の低リークSBDも同6月のサンプル出荷を経て、1年後の量産化を予定しています。MOSFETは、低電圧駆動タイプやスプリットゲート型の各ラインナップを第28期（2023年3月期）から第29期（2024年3月期）にかけて量産化し、IGBTも第29期の量産化を予定しています。脱炭素社会の実現に向けて需要の拡大が見込まれるパワー半導体の開発及び量産化を推進し、今後の成長の柱としていく考えです。

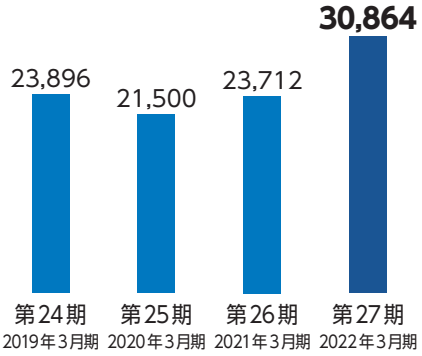
また、新世代パワーデバイス用半導体として、ノベルクリスタルテクノロジー社との協業を進めているβ型酸化ガリウム（β-Ga203）は、ウエハ・チップの共同開発までステージが進んでいます。当社は、これに合わせて同社への追加出資を2022年2月に実施しました。今後は、製品の実用化に向けて開発をさらに加速していきます。

一方、トレックスによる新製品は、成長ドライバーであるDC/DCコンバータを中心に、引き続き小型・低消費電力に高性能を付加したラインナップを拡大しています。第27期は、超低消費電流のコイル一体型降圧micro DC/DCコンバータXCL232をはじめ、高機能昇圧DC/DCコンバータXC9147/XC9148、超低消費LDOレギュレータXC6241といった新製品を投入し、売上の拡大につなげました。

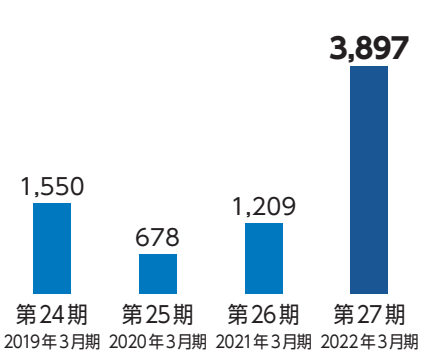
引き続き省電力・小型化技術の強みを活かした製品づくりで、消費電力の低減を促進し、脱炭素化社会の実現に貢献していきます。

第27期 業績ハイライト

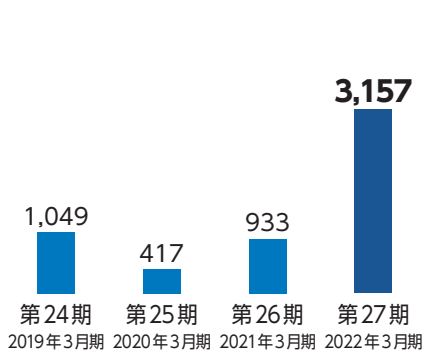
■ 売上高
（単位：百万円）



■ 営業利益
（単位：百万円）



■ 親会社株主に帰属する当期純利益
（単位：百万円）



Q 中期経営計画の進捗と今後の展開をご説明願います。

A **数値目標の一部前倒し達成を踏まえ、早期に成長投資を実行していく考えです。**

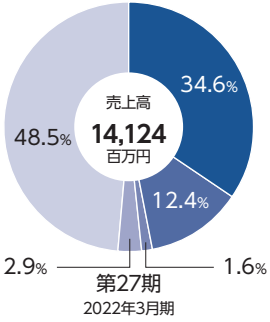
当社グループは現在、第31期（2026年3月期）を最終年度とする5ヵ年の中期経営計画を推進中です。本計画は、CMOS電源ICとパワーデバイスで脱炭素社会を実現する「グリーントランスフォーメーション（GX）」の推進をテーマに掲げ、企業価値の拡大を図るとともに、社会価値を創出していくものです。数値目標は、計画3年目の第29期（2024年3月期）の連結業績における「売上高300億円」「営業利益30億円」を通過点とし、最終年度には「売上高350億円」「営業利益40億円」「DOE（純資産配当率）3.0％」を目指しておりましたが、計画初年度となった第27期は、冒頭に述べましたとおり大幅な増収・増益を遂げ、上記の数値目標のうち、計画3年目の「売上高300億円」「営業利益30億円」について前倒しで達成しました。

本計画の成長戦略として、トレックスでは、マーケット志向の製品企画と、高付加価値製品の開発強化に取り組んでいます。初年度の進展として、マーケット志向の製品企画については、新設した製品企画部門による取り組みを開始しました。高付加価値製品の開発は、DC/DCコンバータを中心とする製品ラインナップの拡充において成果を上げています。

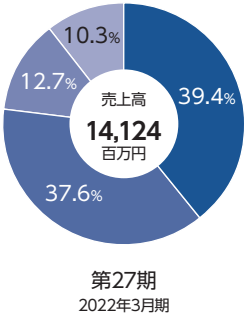
フェニテックは、脱炭素社会への貢献と、収益性・効率性の向上を本計画の成長戦略に掲げています。鹿児島工場で進めているSiCや酸化ガリウムによるパワーデバイスの開発強化は、まさに脱炭素社会への貢献を具現化する取り組みといえます。

TOREX

アプリケーション別売上高

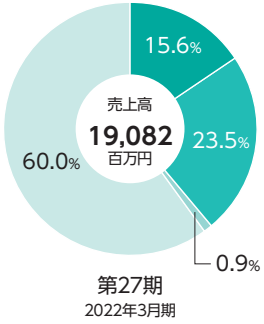


地域別売上高

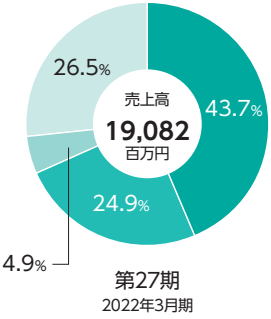


Phenitec
For Further Growth Together

アプリケーション別売上高（参考値）



地域別売上高



※ トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

収益性・効率性の向上については、本社工場の統合が先送りになっているものの、第一工場と鹿児島工場の生産増強投資により改善が進みました。

本計画は、先に述べましたとおり数値目標の一部を前倒し達成していますが、今のところ目標の再設定を行わず、毎期の業績予想数値を目標とすることで、さらなる成長を目指していく考えです。

計画2年目の第28期連結業績は、増収・増益基調の維持を見込み、売上高330億円（当期比6.9％増）、営業利益50億円（同28.3％増）、経常利益50億円（同21.2％増）、親会社株主に帰属する当期純利益35億円（同10.9％増）を予想しています。

なお、本計画期間中の成長投資については、業績の進捗に合わせた実行を想定していたので、前倒しで進めていきます。具体的には、アナログ電源ICの需要拡大への対応として、ファブレスであるトレックスの製品供給能力を増強すべく、フェニテック鹿児島工場のトレックス向け生産ライン拡大のための投資や協力会社との長期契約による生産枠の確保を進めてまいります。

Q 株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

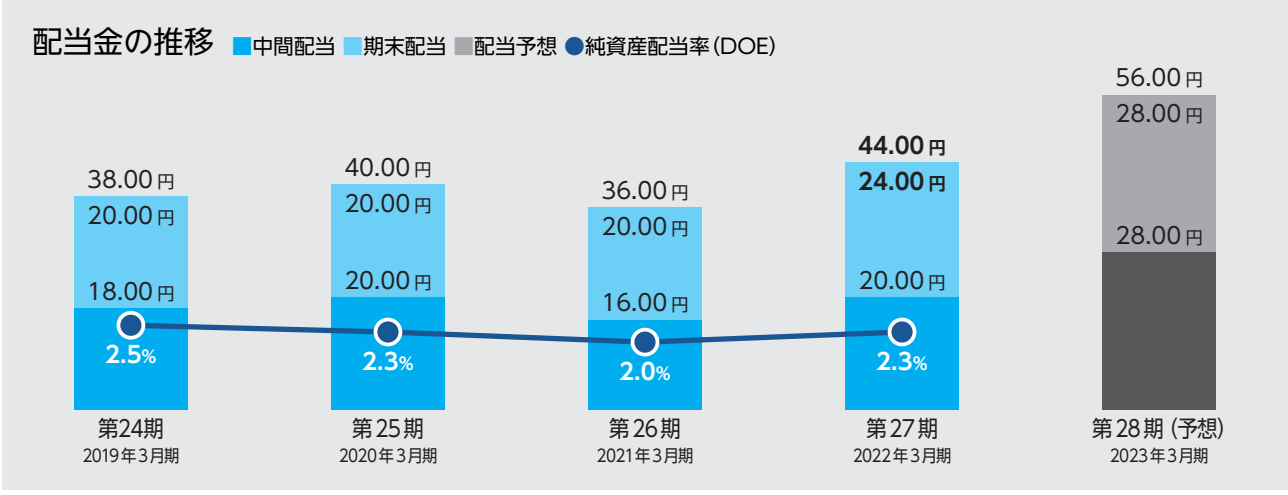
A **脱炭素社会実現への貢献に誇りと使命感を持ち、事業を成長させてまいります。**

今回の期末配当は、利益の拡大を反映して期初の予定より増額し、1株当たり24円とさせていただきました。これにより年間配当は、中間配当の同20円と合わせて同44円、DOEは2.3％となりました。中期経営計画の目標に掲げるDOE3.0％の達成に向け、引き続き安定的かつ継続的な配当の実施を基本としつつ、還元水準の向上に努めてまいります。

当社グループの事業規模は、まだまだ大きなものではありませんが、トレックスのアナログ電源IC、フェニテックのパワーデバイスは、あらゆる電子機器の省電力化を促進し、脱炭素社会の実現に大きく貢献する製品です。私たちは、そのことに誇りと使命感を持ち、事業を成長させてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループ事業へのお力添えが大きな社会価値につながることをご理解いただきつつ、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

		第24期	第25期	第26期	**第27期**
		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	**2022年3月期**
売上高	(千円)	23,896,699	21,500,955	23,712,981	30,864,245
営業利益	(千円)	1,550,962	678,161	1,209,294	3,897,675
売上高営業利益率	(%)	6.5	3.2	5.1	12.6
経常利益	(千円)	1,820,249	676,222	1,206,211	4,124,574
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	1,049,117	417,513	933,591	3,157,348
総資産額	(千円)	28,385,653	27,846,962	31,512,129	34,770,317
純資産額	(千円)	19,638,097	18,671,901	19,789,922	22,729,277
自己資本比率	(%)	69.0	67.1	62.8	65.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,699,779	1,144,832	1,790,473	1,753,056
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△3,256,749	△1,549,839	△1,545,832	△1,608,519
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△928,319	△1,176,672	2,175,021	△2,056,414
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	10,883,205	9,172,228	11,681,709	10,163,070
1株当たり当期純利益金額	(円)	95.89	38.03	85.42	288.60
1株当たり純資産額	(円)	1,717.90	1,712.30	1,808.96	2,077.66



特集

省エネルギー製品の開発で脱炭素社会の実現に貢献

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

トレックスでは「高効率」「低消費」「小型」の電源ICの開発、提供により、脱炭素社会の実現に貢献

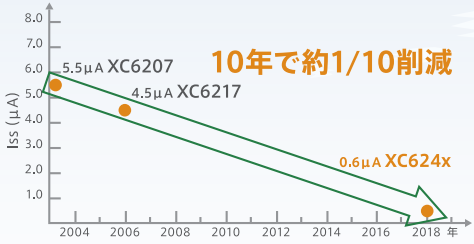
1.高効率・低消費製品の開発

トレックスの低消費電流の電源ICが各種携帯機器の省エネルギー・高効率を実現。
地球環境保全につながるとの立場から開発にあたり、限られたエネルギーの有効利用に貢献します。

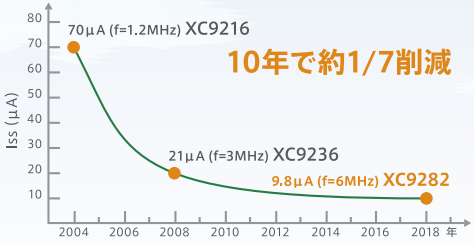
消費電流は10年で10分の1へ

トレックスの電源ICは消費電流を10年前から約10分の1まで削減。低消費電流製品を開発し続けることで省エネルギーに貢献しています。

電圧レギュレータ（GOタイプ）の消費電流動向



降圧DC/DCの消費電流動向



2.小型・省スペース

電子機器の小型化により電子部品にも小型・低背化が求められています。
実装スペースの省スペース化により低消費な製品作りに貢献します。

絶え間なく続く小型製品の開発

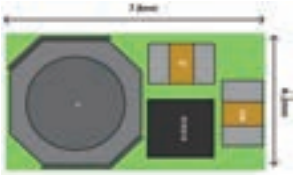
実装面積の削減に向けて小型製品を継続して開発することで環境負荷の低減に貢献します。

降圧DC/DCの部品面積

XC9216（2004年）

USP-6B
2.0x1.8x
0.7mm

32mm²



XC9282（2018年）

WLP-5-06
0.96x0.88x
0.33mm

部品面積は10年で1/12

2.6mm²

していきます。

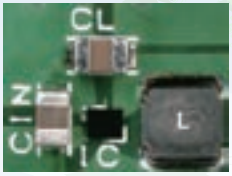
3.トレックスの高い技術力

超小型電源ICに特化したアナログ専業メーカーとしての高い技術で、省エネルギー製品開発で地球環境保全に貢献します。

実装面積を小型化する技術

コイルのインダクタンス値及びICパッケージの小型化により実装面積の削減を実現

従来品



基板サイズの削減

40%

22.2mm²

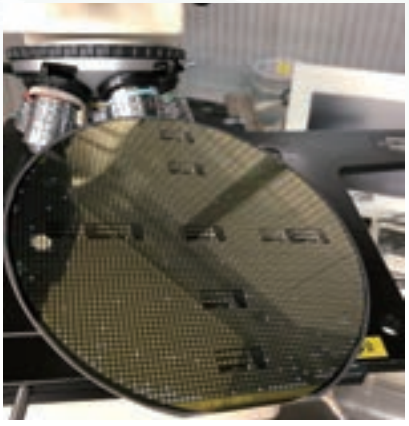
13.43mm²

XC9276

次世代パワー半導体の開発

脱炭素社会の実現へ向けて、トレックスグループのフェニテックセミコンダクターでは電力利用の効率化を可能にするSiCなどの次世代のパワー半導体の開発強化を行っています。

化合物半導体（SiC、酸化ガリウム）の開発、販売促進



SiCデバイスのサンプル供給開始

資本提携先のノベルクリスタルテクノロジー社が開発する酸化ガリウム

会社概要

社　　名	トレックス・セミコンダクター株式会社
所 在 地	東京都中央区新川1-24-1 DAIHO ANNEX 3F
設　　立	平成7年(1995年)3月
資 本 金	29億6,793万円
事業内容	1. 半導体デバイスの開発、設計、製造 2. 半導体デバイスの販売
従業員数	連結／1,034名　個別／174名

役員一覧 (2022年6月23日現在)

取締役（監査等委員である取締役を除く）

代表取締役 社長執行役員	芝宮孝司（しばみやこうじ）
取締役 常務執行役員	木村岳史（きむらたけし）
取締役 執行役員	宮田敬史（みやたたかし）
取締役 執行役員	櫻井茂樹（さくらいしげき）
取締役	石井弘幸（いしいひろゆき）

監査等委員である取締役

常勤監査等委員(社外)	池田耕太郎（いけだこうたろう）
監査等委員(社外)	小松熙（こまつひろし）
監査等委員(社外)	川俣尚高（かわまたなおたか）
監査等委員(社外)	廣瀬由美（ひろせゆみ）

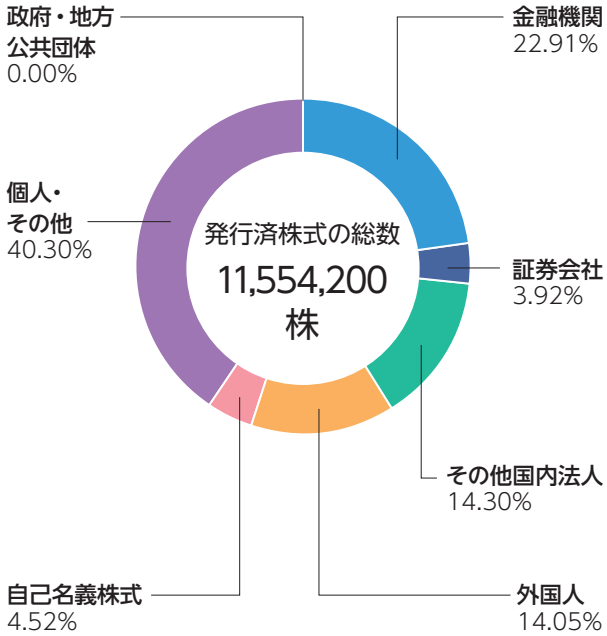
株式の状況

発行可能株式総数..... 36,673,600 株

発行済株式の総数..... 11,554,200 株

株主数 ..... 4,539 名

所有者別株式分布



大株主（上位10名）

株主名	所有株式数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,397	12.67
THE BANK OF NEW YORK 133652	819	7.42
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	561	5.09
藤阪　知之	500	4.54
株式会社中国銀行	472	4.28
アルス株式会社	452	4.10
吉備興業株式会社	397	3.61
尾崎　貴紀	321	2.91
芝宮　孝司	295	2.68
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	257	2.34

※1 当社は、自己株式を522,217株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
株主確定基準日	3月31日
期末配当金株主確定日	3月31日
中間配当金株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先・連絡先	（郵便物送付先） 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 （連絡先） 0120-782-031
公告方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.torex.co.jp/

新任役員からごあいさつ

企業経営を円滑に遂行するために、いわば「縁の下の力持ち」として管理本部は位置付けられると捉えております。

また、プライム市場に移行した当社としては、情報開示の一層の充実に向けて継続的に取り組んで行くことが求められております。そのような環境下、管理本部の果たすべき役割は、株主の皆様からの期待や要請にお応えできるよう変化し続けることだと考えております。

私は、銀行での様々な部署での勤務に加え、上場企業の常勤社外監査等委員という一面において客観的な立場から企業経営に参画しておりました。

これらの経験を活かし、執行部門として当社の持続的成長に向けて取り組む所存です。

取締役 執行役員 管理本部 本部長　**櫻井 茂樹**

この度は社外取締役（監査等委員）を拝命し、その重責に身の引き締まる思いですが、当社が経営上の重要課題と認識するコーポレートガバナンスが実効的に機能するよう、税理士としての専門的見地から責務を果たしてまいる所存です。

また、当社は事業を通じてサステナブルな社会に貢献する価値を生み出せることを強みとしています。

私といたしましても、これまでは公務の場において取り組んでまいりました人材育成やリスク管理の実務経験を糧に、ダイバーシティの推進に寄与することで、当社の非財務面における成長戦略の一端を担いたいと考えております。

社外取締役 監査等委員　**廣瀬 由美**

当社の最新情報はWEBサイトでご覧いただけます。

https://www.torex.co.jp/　トレックス

❶

トレックスのサステナビリティ

❷

投資家の皆さまへ

トレックス・セミコンダクター株式会社
〒104-0033　東京都中央区新川1-24-1
DAIHO　ANNEX 3F
TEL　(03)6222-2851

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915